



KAWASAKI CITY

# かわさき

2003年(平成15年) 毎月1日・21日発行

# 3/1

人口 128万3511人  
前年同月比 13.358人増

世帯数 56万8537世帯  
(15.2.1現在)

No.820

ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/>

発行 川崎市 〒210-8577川崎市川崎区宮本町1 ☎044-200-2111(代表) 編集 市民局広報課 ☎044-200-2287 FAX044-200-3915

## 新しい子どもたちの居場所 わくわくプラザスタート

4月からすべての  
市立小学校で

四月から市立の全小学校でスタートする「わくわくプラザ」は、すべての小学生が利用できる放課後の遊び場、仲間づくりの場です。全校開設に向け、今月から受け付けを開始します。市は、柔軟できめ細かい運営をするため、スタッフの派遣を(財)川崎ボランティアセンターなどに委託します。地域の人もボランティアとして参加し、一体となって安全で楽しい子どもたちの居場所を目指します。

柔軟な運営で  
放課後を楽しく安全に

わくわくプラザは、市内在住・在学のすべての小学生が日曜、祝日、年末年始を除く月曜から土曜の放課後に楽しく遊べる場所です。授業のあ

る日は放課後から午後六時まで、授業のない日は午前八時半から午後六時まで利用できます。

プラザ室は、小学校の校舎や敷地内に設置。子どもたちは、かばんを置いて工作や読書をしたり、学校施設でスポ

ーツをしたりして自由に過ごします。施設が学校内にあるので、交通事故などの心配もなく楽しく安全に過ごせます。

わくわくプラザの運営は、(財)川崎ボランティアセンター(四月一日から(財)かわさき市民活動センターに改称)と社会福祉法人の青丘社に委託、スタッフの派遣などを行います。

運営スタッフは四人を基本とし、子どもたちが安全に遊べるように配慮します。また子どもとの人数や障害のある子どもなど利用状況に応じてスタッフを増員し、柔軟できめ

細かな運営をします。

近所の人も  
ボランティアで参加

さらに運営には、保護者、地域団体、地域住民がボランティアとして参加。地域に密着した施設を目指します。

平成十二年十月から各区の小学校でモデル事業としてスタートしたわくわくプラザ。

モデル校の一つ栗木台小学校わくわくプラザ(麻生区)では、保護者がボランティアグループを結成し、童話の読み聞かせなどを行っています。

「活動を通してさまざまな学年の子どもと知り合い、近所で会うとあいさつをしてくれるようになりました」と話



「イチニ、イチニ竹馬って楽しいな」(木小小学校わくわくプラザ)

**問い合わせ**

区運営指導担当...川崎...222-9366、幸...541-8006、中原...722-8299、高津...813-0760、宮前...865-8654、多摩...932-8300、麻生...955-2453

市民局 青少年育成課... ☎(200)2668、 ☎(200)3912

4月1日からは、(財)かわさき市民活動センター ☎(430)5566、 ☎(430)5588にお問い合わせください。



目を輝かせて聞き入る子どもたち(栗木台小学校わくわくプラザ)

**もうひとつの子どもの居場所・こども文化センターが変わります**

4月から、もうひとつの子どもの居場所、こども文化センターの開館時間を延長します。

午後6時で閉館していましたが、午前9時半から午後9時(日曜は午後6時)まで延長し、年末年始を除く毎日開館となります。

問合せ 市民局青少年育成課 ☎(200)2668、 ☎(200)3912

**あなたが主役 行こうよ選挙**

**投票日 4/13(日)**

午前7時から午後8時まで

**川崎市議会議員選挙**

神奈川県議会議員選挙・神奈川県知事選挙です。

問合せ 選挙管理委員会事務局選挙課 ☎(200)3427、 ☎(200)3951

**わくわくプラザ Q&A**

Q. 申込書の配布場所は？  
A. 区役所・支所・出張所・市民館・図書館・こども文化センターなどで配布しています。

Q. 申し込みをするのは誰？  
A. 必ず保護者が行ってください。

Q. 申し込みは、いつどこ？  
A. 3月6日(木)、7日(金)の午後4時から6時まで、8日(土)午前10時から12時まで。いずれも原則的に各小学校わくわくプラザ室で行います。

Q. 3月の受付日に行けない場合は？  
A. 4月1日以降わくわくプラザ室で受け付けます。

Q. 費用は？  
A. 無料です。ただし万一に備え保険への加入をお勧めします。保険料は年額500円(振込手数料除く)です。また、行事などに参加する場合は参加費、おやつを希望する場合は実費(100円程度)をいただきます。

してくれたのはメンバーの一人、法木忍さん。同じく小林まゆみさんは「活動にはプラザ出身の中学生も参加。年齢が近いこともあり、子どもたちは大喜びでした」と語ってくれました。

一方、近所の人が将棋や竹馬などを教えている木月小学校わくわくプラザ(中原区)。その一人の綿貫國治さんは「どついたら上手に竹馬に乗れるか、子どもは真剣に考えます。遊びは、子どもの体と考える力を養っていると思います。これからもけん玉など、ほかの遊びも伝えていきたいです。」

子どもは、多くのものを吸収しながら成長していく素晴らしい力と可能性の持ち主です。そんな子どもたちが、地域の温かい視線の中で健やかに育つ環境づくりに向け、市は今後も取り組みを充実させていきます。